

- 本県のスギ素材生産量は、平成3年から連続して日本一であるが、林業担い手の減少や高齢化などから伐採後に再造林されない森林が増えつつあり、担い手の確保が大きな課題となっている。
- このため、造林作業の主要な担い手である森林組合において、新規就業者の確保につながる造林作業のインターンシップを実施した。

□ 事業内容

1 造林担い手インターンシップモデル事業

インターンシップの受入先となる森林組合の受入体制確立に向けた指導や造林作業のインターンシップを実施

【事業費】8,825千円（うち譲与税4,413千円）

【実績】

① 受入体制支援：6 森林組合

森林組合の作業条件・労働環境等の調査や受入体制確立に向けた指導・支援

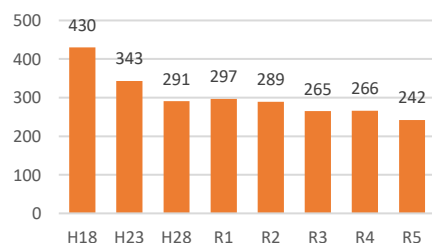
② お試し造林：6 森林組合17人

安全に実施可能な造林作業のインターンシップを実施

□ 取組の背景

- ・ 再造林は主に森林組合が担っているが、担い手の減少や高齢化などにより造林作業班員数が減少し再造林されない森林が増えており、担い手の確保の取組が必要とされている。
- ・ そこで、ウェブなどでインターンシップ参加希望者を募集し、未経験者でも就業体験しやすい環境を整備し、森林組合でインターンシップを実施することで新規就業者の確保に取り組んでいる。

森林組合の造林作業班員数の推移



（造林作業の様子）

□ 工夫・留意した点

- ・ 受入体制の整備や雇用管理、就業中のサポートにより、インターンシップ参加者が就業しやすい環境づくりや、天候不良時の対応をスムーズに行うことができた。

□ 取組の効果

- ・ 森林組合が実施する募集業務に対して、人材派遣会社が助言することで22歳から64歳までの幅広い年代、また、全国各地からの応募（応募・問い合わせ総数33人）につながった。
- ・ インターンシップ参加者に対し、アンケートを実施した結果、58.8%が「今後、同様の事業があった場合には応募する」と回答し、満足度の高い事業となった。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：200,856千円	②私有林人工林面積（※1）：230,240ha
③人口（※2）：1,069,576人	④林業就業者数（※2）：3,587人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より